

医学部ウォーカー

1面：寄附講座「地域救急医療学講座」の設置
2面：弘前大学COI推進「3D(ダウン)レシピ」の啓発
3面：平成27年度最終講義「完全皮下植込み型除細動器」の設置
4面：文部科学省「若手研究者賞」を受賞した「発達障害児に対する科学的アプローチ」について
5面：学生表彰式
6面：SD研修医選考会
7面：SD研修医選考会
8面：SD研修医選考会
9面：SD研修医選考会
10面：SD研修医選考会
11面：SD研修医選考会
12面：SD研修医選考会
13～14面：人事異動

題字 前弘前大学長 遠藤正彦氏筆

寄附講座

「地域救急医療学講座」の設置にあたって

地域救急医療学講座 教授(兼任) 山村 仁

平成二十八年四月一日付で、「地域救急医療学講座」が開設されました。弘前市からの寄附講座で、担当教員は併任教授と黒瀬理恵助教(整形外科専門)、小林完助教(小児外科学専門)となっております。設置期間は四年ですが、講座の目的は弘前市を中心とした地域の救急医療全般にわたる研究を行うことです。また、この講座が中心となり地域救急医療に係わる人材育成を行うことも重要な任務となります。

弘前市の救急搬送件数は年々増加していますが、その

の年齢別の内訳をみると、高齢者搬送件数の増加が著しいことが解ります。これは全国に共通した傾向です。救急傷病者を診療する医師や看護師、コメディカルの増員が望めないなか、救急診療への対策だけでは、救急医療に関する諸問題は解決しません。そのため、救急搬送件数を減少させるための方策を考えることも重要となります。本講座では、救急搬送に関する疫学的な調査を行い、搬送の実態を把握することで、搬送件数増加への対応策も考えていきます。

や新聞紙を置かない、階段などには補助の手すりをつけるなどの対策が有効です。そのため、地域住民の方々へ啓蒙的な指導や救急医療に関する全般的な知識を啓発、普及も行いたいと考えています。

四月六日に行われた「地域救急医療学講座」設置協定に関する記者会見で、葛西憲之市長から弘前大学が今まで果たしてきた地域救急医療への感謝とともに大

学病院が二次救急輪番病院と連携することで、初期から三次まで切れ目のない救急診療を系統的行えることは大変有意義であると述べられ、佐藤学長からも講座寄附への感謝の辞がありました。本講座により、地域と大学病院ならびに二次救急医療機関が良好な関係を構築するとともに、それぞれの救急診療の発展に少しでも寄与できるよう努力したいと考えております。皆様方のご指導ならびにご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

本プロジェクトの軸となる企画として、四月から十一月までの八カ月間にわたり、「減塩で高血圧予防!3D(ダウン)レシピコンテスト」を実施いたします。

「楽天レシピ」のコンテストページで、浜内氏がそれぞれの募集テーマに沿ったレシピを青森県の食材を中心に開発し、作り方を披露する動画を掲載します。この内容は、RAB青森放送「ZIPP!FRIDAY」の「楽天レシピ」との共同制作コーナー「おいしく減塩!3D(ダウン)キッチン」で毎月1回放送予定。



記者発表会(4月12日開催) 左から、料理研究家・浜内氏、中路教授、楽天・濱野氏

楽天レシピと弘前大学COI、 レシピを通じた高血圧予防で協働

COI研究推進機構 機構長補佐(戦略統括) 副理事(研究担当) 教授 村下 公一

単に、塩分を減らすだけのレシピや病院食のように徹底的に栄養管理をするレシピでは、味に物足りなさを感じるため、なかなか継続することが難しいイメージがありますが、本プロジェクトでは、美味しさを損なうことなく、手軽に、楽しく調理できる医学および料理の専門家の知見を取り入れたレシピを、「楽天レシピ」ユーザーとともに開発・提案します。

今回のプロジェクトは、文部科学省に採択されたCOI(革新的イノベーション創出プログラム)の社会実装活動の一環として、食事による健康づくりにスポットをあてて開始しました。本学COIのリサーチリーダーである中路教授を中心に、レシピサイトの特性を活かした企画を展開します。

テレビや新聞、雑誌、ジャーナリストなどが多数来場



寄附講座記者会見



全国から「高血圧予防レシピ」の啓発表現へ



楽天レシピ

楽天レシピの普及を、コンテンツなどの企画を通じて推進します。本プロジェクトの3D(ダウン)レシピのコンセプトは、油と砂糖を減らすことで、より少ない塩の量でも塩味を感じることができ、減塩方法に基づくもの

「楽天レシピ」と弘前大学COIは、今後も、様々な企画を通じて、料理を楽しみながらおいしく健康増進のできるレシピの提案を通じた予防法の開発普及に取り組みまいります。

「減塩で高血圧予防! 3D(ダウン)レシピ」コンテスト! <http://recipe.rakuten.co.jp/category/39-705/topics/>



浜内氏による3D(ダウン)レシピ(シジミいり長芋の煮物など)

長稿 研究科 医学部 医学

教育研究院医学系について

医学研究科長 若林孝一



平成二十七年十月一日から全学的に教育研究院が設置され、医学・保健学系の教員（平成二十八年四月一日現在で三百八十四名）は医学系（基礎医学、臨床医学、保健科学の三領域からなる）に所属することになりました。私は現在、医学系長に任命されており、この場をお借りして教育研究院について概要を説明しておきたいと思っております。

教育研究院は教員組織であり、教員ポストを全学的に一元的に管理するために設けられたものです。部局としての医学研究科や附属病院がなくなったわけではございません。各領域から提出のあった人事事項は、月に一度開催される全学教員人事委員会（委員長は学長）に報告され、最終的な判断がなされます。職階ごとにポイントを与え、部局ごとに総ポイント数の枠内で人事を行う制度（ポイント制）は今年の十月を目途に導入されることになっておりますが、現時点ではその内容は明らかになっていません。

従来より最も異なるのは教授選考の方法だと思います。これまでは教授会の投票によって教授候補者を決定してまいりましたが、今後は教員選考委員会が教授候補者を決定し、学系会議がその可否を決定します（最終的には全学教員人事委員会承認されます）。例えば、基礎医学領域の教員選考委員会の構成員は、基礎医学領域長（鬼島宏教授）、基礎医学領域から選出された教授四名、臨床医学領域から選出された教授四名、臨床医学領域の代表二名（中村敏也教授、齋藤陽子教授）、附属病院長と選考委員会による面接、抱負発表会を行う点は従前どおりです。

なお、基礎および臨床医学領域の准教授、講師、助教、助手の人事に関して

は、遅滞なく行う必要があることから、助教または助手については選考委員会を設置しなくてもよいことになっておりますし、准教授または講師については公募要項の作成を省略することができると言えます。逆に言えば、他の領域（保健科学領域）や学系（人文社会・教育学系、自然科学系、地域イノベーション学系）では、すべての教員採用に対し選考委員会を設置され、公募要項を作成し、公募を行ってまいります。

病院長は専任制となっており、教授ではなくなりまので、学系には所属していません。また、寄附講座の教員（平成二十八年四月一日現在で二十一名）も学系には所属せず、寄附講座の人事は従前どおり医学研究科で行っております。

附属病院長就任に際してのご挨拶

附属病院長 福田眞作



二〇一六年四月一日より附属病院病院長を拝命いたしました。弘前大学では、二〇一四年二月の中教審大学分科会の審議まとめ及びその後の法改正の内容を踏まえ、部局長の選考に係る学内の関係規程が大幅に改定されました。病院長選考

にあたっては、従前の意向投票および教授会での候補者選考を廃止し、病院長の選考は学長が行うこととなりました。私が新たな選考制度で任命された初めての病院長ということになります。選考にあたって、「学

長は、医学研究科及び医学部附属病院に所属する職員（専任担当として配置された教員を含む。）の意見を聴取すること」とされており、学内の主立った方々から意見をお聞きしたうえで、私を選出したと佐藤敬学長から伺いました。学内

職員の方々の信任が得られたものと信じて、これからの二年間院長職を務めて参りたいと思っております。前藤哲院長は、この四年間精力的に活動され、ICUの増床整備、SCU（脳卒中ケアユニット）の設置、女性医師支援施設の建設、総合患者支援センターの設置など、病院設備・組織を充実させ、また職員のアメニティーの向上に尽力されました。副病院長として藤院長をサポートした経

験を活かしながら、病院機能の更なる充実と病院経営の健全化ならび職場環境の改善に務めて参ります。病院の運営は年々厳しさを増しており、決して楽観できないものではありませぬ。副病院長（伊藤悦朗教授、大山力教授）、病院長補佐（大門眞教授、加藤博之教授、石橋恭之教授、小林朱実看護部長）、事務部長をはじめとする優秀な事務職の皆さん、そして何よりも最前線で奮闘していただいている職員の皆さんとともに、地域の皆さんから信頼される医療機関であり続けるように頑張りたいと思っております。

高校を卒業後、弘前にきてから四十年が経ち、秋田弁よりも津軽弁の方が心地よくなりました（上手くは話せませんが）。二〇〇七

新たな心臓突然死予防の選択肢…完全皮下植込み型除細動器（S-ICD）の可能性

不整脈先進治療学講座 准教授 佐々木 真 吾

我が国では年間十二万六千人（平成二十六年）が心臓停止で救急搬送され、その六〇％が心臓突然死（sudden cardiac death: SCD）と考えられています。SCDの原因で最も多いのは心室頻拍（VT）や心室細動（VF）などの致死的心室性不整脈であり、その予知法が確立されていないことから、現時点では除細動器が最も確実なSCD予防法と考えられています。植込み型除細動器（implantable cardioverter-defibrillator: ICD）は体内に除細動器（リード+本体）を植込むもので、人体への初回植込みからはや三

十年の歴史を有する確立された治療法です。一方、ICDの最大の欠点はシステムの一部を必ず血管内に配置しなければならぬこと、ICD植込み後にリードの断線やデバイス感染が生じた際、その対処法に難渋することがしばしばです。平成二十六年四月に登場した着用型自動除細動器（wearable cardioverter-defibrillator: WCD）はSCDリスクの高い患者における一定期間のリスク管理法として有効活用が期待されていますが、保険償還の問題で、残念ながらその使用は未だ限定的です。

本年二月より臨床使用が可能な新たな完全皮下植込み型除細動器（subcutaneous ICD: S-ICD）はシステム全体が血管外にあることが最大の特徴であり、ICDの欠点を補うことが可能です。我々は二月一日に国内初のS-ICD植込みに成功しましたが（写真）、デバイス本体は患者の左側胸部の筋下（または皮下）に、リードは剣状突起の脇から胸骨左縁の皮下に留置され、その方法は標準化されています（図）。

従来のICDは心臓内に配置されたリードから心臓の電図を利用してVT/VFとの鑑別を行うのに対し、S-ICDは皮下心電図を変換し鑑別を行う点が特徴で、さらに体表から除細動を行うため、ショック時の心筋へのダメージが少ないことが予想されています。S-ICDの有用性が特に期待されているのは静脈へのアクセスが得られない（例…静脈閉塞、血管奇形）、従来のICDでは合併症のリスクが高い（例…血液透析、小児、免疫不全）、遺伝性疾患（例…Brugada症候群）、デバイス感染やリードトラブル後、感染性心内膜炎の既往を有する場合であり、S-ICDの長期的有効性が確立されれば、今後若年者を中心にS-ICDが広く適用されていくことが予測されます。S-ICDの登場により今日我々はSCD予防においてAED、植込み型、着用型、そして皮下留置型と四種類のSCD予防デバイスが使用可能となりました。言い換えれば患者背景や病態に応じて個別にSCDの予防法を選択することが必要で、医師の力量が試される時代に突入したといえます。



S-ICDと植込み時のイメージ図 (提供: ホストンサイエンティフィックジャパン)



S-ICDシステム



S-ICD植込み例の胸部レントゲン写真 (10代男性)



平成27年度 最終講義

土田 成紀 教授 (ゲノム生化学講座)
 高井 良尋 教授 (放射線科学講座)
 水沼 英樹 教授 (産科婦人科学講座)
 藤 哲 医学部附属病院長
 奥村 謙 教授 (循環器腎臓内科学講座)

学務委員長 鬼島 宏 (病理生命科学講座 教授)



平成二十七年度最終講義が、平成二十八年二月十五日および三月十七日の二日間に行われました。今年度退任される先生方は五名おられ、二月十五日には、土田成紀教授(ゲノム生化学講座)、高井良尋教授(放

射線科学講座)、水沼英樹教授(産科婦人科学講座)の三名の先生方が最終講義を担当され、三月十七日には、藤哲医学部附属病院長ならびに奥村謙教授(循環器腎臓内科学講座)が最終講義を担当されました。



高井良尋教授による「日

本がリードしてきた高精度放射線治療―過去・現在・未来―。放射線科学領域では、高橋信次初代教授の回転横断撮影に端を発し、弘前から多くの研究が発信されてきました。現在は、高度の画像解析技術により、癌の進展範囲を症例ごとに三次元で厳密に捉えることで、癌組織に特異的に照射を行うことができる放射線治療学が紹介されました。近い将来には、細胞レベルで癌細胞特異的に照射を行うことが可能となり、今までの放射線治療のイメージとは全く異なる、高精度放射線治療の世界が呈示されました。



水沼英樹教授による「産婦人科の新しい専門領域―女性医学について―」。これまでの産科婦人科学では、周産期学・生殖医学・婦人科腫瘍学が三つの大きな領域でしたが、現代社会で活躍する女性を生涯支え

奥村謙教授による「手」

密な構造を有する「手」を治療対象にしているからこそ、外科手技も複雑多岐に渡る驚嘆の世界を示されました。奥村謙教授による「手」を治療対象にしているからこそ、外科手技も複雑多岐に渡る驚嘆の世界を示されました。



藤哲附属病院長による「未知の世界に魅せられて40年」。人間の体の中で最も緻密で最も鋭敏な感覚を持つ「手」の医療に見せられ、手の外科の黎明期から従事し、世界中の外科診療の情報を集積して、医療現場への応用を試みられた経歴が語られました。骨固定・マイクロサージェリーを用いた組織移植などを応用して、手を中心とした上下肢の外傷・機能障害などからの回復を試みる数多の挑戦であったそうです。緻

てゆく医療が必要との切実性が、新たな領域の確立に傾倒したと語られました。更年期を中心とした疾患にのみ注目されがちであった女性医学が、女性のライフステージに応じた健康管理に対応する医療となることで、産科婦人科学の四番目の柱となったとのこと。最後に、産科婦人科学を目指す若手医師が増加し、最近の講座はとても活気があるそうです。

五名の先生方ともに、各医学分野において、新たな専門領域を立ち上げ、発展させてきたことが示された。圧巻の講義でした。二月十五日および三月十七日の両日ともに、講義終了後には多数の花束贈呈があり、会場を埋めた聴衆から大きな拍手が送られました。最後に医学研究科長から謝辞があり、二日間の

最終講義の幕が閉じられました。五名の先生方は、年齢六十五歳を迎えられた(若しくは、迎えられる)とは思えないほど、若々しく、バイタリティーに溢れておりました(失敬な表現をお許しください)。事実、先生方は、四月より新天地にてフルタイムの勤務をこなされるようで、定年退任の言葉は、全く以って相応しくない感じでした。土田先生は弘前医療福祉大学教授として、高井先生は東北北BNCT研究センター長として、水沼先生は福島県立医科大学ふくしま子ども

も、女性医療支援センター長として、藤先生は国立病院機構弘前病院統括病院長として、奥村先生は済生会熊本病院心臓血管センター最高技術顧問として、今後も第一線の医学・医療の現場に立たれます。

密な構造を有する「手」を治療対象にしているからこそ、外科手技も複雑多岐に渡る驚嘆の世界を示されました。



弘前大学医学部50年史 1994.11発行



弘前大学医学研究科の発展に長きにわたり尽力されてきた土田先生、高井先生、水沼先生、藤先生、奥村先生に感謝を申し上げますとともに、今後とも医学研究科にお力添えをいただきますようお願いを申し上げます。

最終講義の幕が閉じられました。五名の先生方は、年齢六十五歳を迎えられた(若しくは、迎えられる)とは思えないほど、若々しく、バイタリティーに溢れておりました(失敬な表現をお許しください)。事実、先生方は、四月より新天地にてフルタイムの勤務をこなされるようで、定年退任の言葉は、全く以って相応しくない感じでした。土田先生は弘前医療福祉大学教授として、高井先生は東北北BNCT研究センター長として、水沼先生は福島県立医科大学ふくしま子ども



平成 28 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞を受賞して

脳神経生理学講座 助教 古賀 浩平

この度、平成二十八年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞を「新規鎮痛薬開発を目指した慢性疼痛の神経機構の研究」で受賞しました。この受賞はこれまで多くの師匠や先輩と出会い、研究を行った結果です。

部統合生理学教室（吉村恵教授）の博士課程に入学しました。ここでは、当教室が世界で初めて開発した脊髄スライズ標本と生きた状態の動物の単一細胞から記録を行うパッチクランプ法を習いました。さらに、日本から独自の研究を発信していく重要性を学びました。

今後の疼痛研究を見据えたときに考えたのは、痛みと情動でした。例えば、ヒトは少しでも痛みがあると不快になる。慢性疼痛患者の多くは不安やうつ状態を伴うなどです。この機序は良くわかっていないのでは

私には福岡大学薬学部の学生の時に「痛み研究」に出会いました。当時の指導教官である本多健治先生ご指導の下、実験を進めて行くに連れて「痛み情報はどのようにして身体を伝わり、痛みを感じるのだろうか？」という素朴な疑問が出てきました。大学を卒業した後、同大学院薬理学講座で本格的に研究を始めました。その時のテーマは、行動薬理学的な手法を用いて鎮痛作用機序を明らかにすることでした。本多先生には研究の楽しさを教えていただき、さらに研究を深めていくためには、神経細胞レベルで疼痛機序を解明する必要を感じました。その後、疼痛研究で世界的な研究室である九州大学医学

部統合生理学教室（Prof. Min Zhuo）に留学し、博士研究員として働き始めました。ここには六年間滞在しました。この研究室では痛み受容と情動の両方に重要な役割を果たす前帯状回に注目して、シナプス前終末の長期増強が慢性疼痛と不安のシナプス可塑性であ



この度、公益社団法人発達科学研究教育センターによる学術研究助成事業に当センターの研究課題である「親の肯定的・否定的養育行動と発達障害が子供の向社化問題との関連」が採択され、申請内容に対し「発達科学研究奨励賞」を頂きましたので、内容について以下に簡単ではありますが紹介したいと思います。

親の養育行動（parenting behaviors）は子どもの発達や問題行動を規定する中心的な要因として、古くから注目されてきました。このような中で、近年、自閉スペクトラム症（ASD）や注意欠如多動症（ADHD）などの発達障害が幼児を持つ親が、子どもの問題行動への対応に苦慮した結果、厳しいしつけや放任などの不適切な養育行動をとり、それが子どもの問題行動の持続・悪化や新たな問題行動の生起に繋がるといふ悪循環のプロセスの存在が示唆されています。しかし、養育行動研究の中で

も発達障害が特性を要因として考慮した実証的な調査研究は国際的にみてもまだまだ少なく、わが国においても標準化された調査スケールを用いて養育行動と子どもの発達障害特性や二次障害への影響について実態調査を行い、関連を見出すような研究は未着手の研究領域となっています。

このような中において本研究は、弘前市における五歳児発達健診において養育行動について尋ねる質問紙調査を行い、親の養育行動と幼児の発達特性および向社化問題との関連について横断的に検証することで、

発達障害が及ぼす二次障害の予防に寄与する知見を提供することを目的としています。また、本課題において幼児・児童の発達特性や向社会的行動および内在化・外在化問題と養育行動との間に関連性が観察された場合、次年度以降には、同様の尺度を用いて養育行動が及ぼす継続的な影響を縦断的に検討する計画（五歳時点の保護者の養育行動が数年後の対象児の向社会的行動および問題行動をどの程度説明するか）を立案中であり、本研究はその基礎研究に位置づけられます。今後、本研究課題の遂行



公益社団法人発達科学研究教育センター（CODER）
発達科学研究奨励賞を受賞して
附属子どものこころの発達研究センター
特任助教 足立 匡基

大学院に新設された「スポーツ医科学」 「社会医学推進枠」について

社会医学講座 教授 中路 重之

今年度より、大学院枠として「スポーツ医科学・社会医学推進枠」（若十名）が新設されました。スポーツ医科学研究と社会医学研究に特化したものです。今年度の入学者は三名です。関係者の皆さまにはこの場を借りて御礼申し上げます。

その後准教授に梅田孝先生を迎えたことにより、スポーツ現場での医学サポートはさらに拡大しました。主なものは以下です。

賀稔彦選手、野村忠宏選手、アーチェリーの山本博選手、たいそうのおにいさん、佐藤弘道さんなど多士済々のメンバーですが、在学生にも谷本歩実選手（柔道）、清水宏保選手（スケート）、金野潤選手（柔道）など多くのアスリートが集っています。

①松井秀喜が出演していた夏の甲子園の審判員の熱中症対策・七回終了後の飲水励行を提案（一九九二年）

②湘南ベルマーレに対するサポート・二〇一〇年十一月ぶりにJ1昇格

全国のアスリートが分野・学校の壁を取り払って弘前大学に集い、健康やスポーツの話題を自由に語り合い、そして研究と勉強の通い合う暖かいプラットフォームを提供できる弘前大学になればと強く願っています。今回の「スポーツ医科学・社会医学推進枠」新設がその大きな転機になることを願っています。良い方がおられましたら是非入学を勧めてください。

②全日本女子バドミントンチーム合宿時の医学調査・ヘモグロビンが10g/dlを割る選手が三人おり、基本的な健康管理の大切さを痛感（一九九〇年）

③全日本女子柔道代表チームの強化合宿時のサポート・直後の世界選手権で史上最高の成績（二〇〇九年）

一九九〇年代に研究生となったのは齋藤一雄選手（アマチュア相撲全日本チャンピオン）、益子俊志選手（早稲田大学ラグビー部選手・監督）、山本洋祐選手（ソウル五輪柔道銅メダリスト）、北田典子選手（ソウル五輪柔道銅メダリスト）、小嶋新太選手（全日本柔道選手権三位）など、各々の分野のテーマで博士論文を書きました。その後さらに多数の大学院生が入学しました。柔道の古

平成 27 年度弘前大学学術特別賞（遠藤賞）を受賞して

黄色ブドウ球菌スーパー抗原毒素の機能解析とワクチン開発

感染生体防御学講座 教授 中根 明夫

本年二月十六日、医学研究科大会議室において「平成二十七年弘前大学学術賞」の授賞式がありました。平成二十三年に本賞が制定され、特別賞に「遠藤賞」という名称が付されました。本賞は遠藤正彦前学長のご寄付をもとに制定されたものであり、研究者にとってきわめて価値の高い賞です。私も一研究者としていつか榮譽ある本賞に応募してみたいと思いましたが、中途半端な業績で応募するのは自分としても納得がいかず、その気持ちは封印していました。幸いにも平成二十六年三月に私が主たる活動をしている学会の賞をいただき（医学部ウォーカー 七十一号で報告）、やっと応募資格が得られたものと考え、中路医学研究科長のご快諾を



得て、応募しました。最初で最後の応募と考えていましたが、受賞することができ、このうえもない喜びと榮譽に浴することができました。関係各位に改めてお礼申し上げます。

受賞対象である「黄色ブドウ球菌スーパー抗原毒素の機能解析とワクチン開発」の研究の概略を紹介いたします。黄色ブドウ球菌は一部の健康人の咽頭や鼻腔に常在する一方、その多剤耐性菌である MRSA は免疫が低下した宿主に対し重篤な感染症を引き起こすというずる賢い細菌です。黄色ブドウ球菌は表皮ブドウ球菌と異なり、さまざまな病原因子を分泌します。その中で、ブドウ球菌性スーパー抗原毒素ファミリーが重要です。TSST-1 を中心とするスーパー抗原は CD4 陽性細胞をオリゴクロニナルに活性化し、炎症を惹起します。毒素性ショック症候群がその典型です。一方、SEA などはさらに嘔吐を誘導し、ブドウ球菌性食中毒の原因となります。私たちは TSST-1 と SEA に注目し、(1) TSST-1 の無毒変異体が MRSA 感染症のワクチンとして有効であることとそのメカニズムを解明したこと、(2) TSST-1 は T 細胞のみならず上皮細胞にも作用し、上皮細胞のオートファジーを制御すること

により黄色ブドウ球菌の持続感染に関与していること、(3) スンクスを用い、SEA の嘔吐誘導メカニズムを解明したこと、などの成果を挙げてきました。今後の課題として、MRSA 感染症の制御を行うためには、黄色ブドウ球菌とヒト

の共生メカニズムの解明が必須であり、スーパー抗原毒素の切り口からその解明と MRSA 感染症の制御に向けての研究をさらに進めていきたいと思えます。

本研究は、「感染生体防御学チーム」の汗の結晶であり、本成果の中心を担った胡 東良准教授（現北里大学獣医学部教授）、浅野クリスナ講師、成田浩司助教、小野久弥助教（現北里大学獣医学部助教）を始め、大学院生やサポートスタッフ一同に深く感謝いたします。

平成 27 年度 弘前大学学生表彰

教育委員会副委員長 鬼島 宏 (病理生命科学講座 教授)

平成二十八年三月二日、平成二十七年弘前大学学生表彰式が、文京地区の大学本部にて開催されました。弘前大学学生表彰は、当該年度ないしその前年度に課外活動・研究活動・社会活動等で顕著な成果を挙げた学生または団体を表彰されるに値するものが、全学の教育委員会で審議・選出されて、学長より表彰される制度です。今年度は医学部・医学研究科からは、以下の十一名（個人）および五団体が榮譽ある表彰を受けました。

- 浦田 風（二年）第 58 回東
- 横山 和樹（三年）第 58 回東
- 賀佐 一大（四年）第 58 回東
- 小田切直生（二年）第 58 回東
- 桑田 大輔（五年）第 58 回東
- 高橋 茜（四年）第 57 回東
- 宇佐美真太郎（五年）第 57 回東
- 東医体スキー男子回転・大回転優勝
- 医学部スキー競技部 第 57 回東
- 東医体スキー女子総合準優勝
- 医学部卓球部 2014 年度
- 東日本医歯薬学生卓球大会団体男子優勝・女子準優勝
- 医学部ラグビー部 第 58 回東
- 医学部バレーボール部 第 58 回東
- 医学部ソフトテニス部 第 58 回東
- 福士 謙（院三年）第 100 回
- 小島 由太（院四年）欧州泌尿器科学会にて研究発表・ベストスター賞
- 藤田 尚紀（院四年）第 100 回

- 日本泌尿器科学会総会にて研究発表・総会賞
- 齋藤 良明（院三年）論文四編が Journal of Artificial Organs 等の国際誌に掲載



平成 27 年度弘前大学学生表彰表彰式

弘前大学医学部では、国家試験合格率のみならず、共用試験結果や臨床研修における卒業生の活躍などが高い評価を受けるようになっていきます。加えて、今回の学生表彰者をはじめとして課外活動等の分野でも活躍してくれる学生が多いのは、頼もしい限りです。昨年度より弘前大学の学生表彰採択が、より厳しい基準で行われたにもかかわらず、計十一個人・団体が被表彰となりました（二十六年十一件、二十五年十三件、二十四年度十三件、二十三年七件、二十二年七件）。一方、今年度は研究活動において顕著な成果を挙げた被表彰学部学生が

おらず、寂しい感があります。研究に触れる機会があるので、今後は一人でも多くの学生が研究活動で力を発揮してくれることを願っています。一方、課外活動（クラブ活動）は全般に盛んであり、被表彰団体をはじめとして各部活動がここ数年東医体等で好成績を続けているのは賞賛に値します。

今後も、学生諸君が弘前大学医学部医学科で文武両道を実践するとともに、より一層充実した大学生活を送ることを期待しています。

平成二十八年三月二十三日午後三時三十分から基礎大講堂において、平成二十七年学位記（医学士）伝達式（二十六年度一名、二十五年二名、二十四年度五名）新カリキュラムにより、学部四年次に研究室研修が組み込まれ、在学中から研究に触れる機会があるので、今後は一人でも多くの学生が研究活動で力を発揮してくれることを願っています。一方、課外活動（クラブ活動）は全般に盛んであり、被表彰団体をはじめとして各部活動がここ数年東医体等で好成績を続けているのは賞賛に値します。

今後も、学生諸君が弘前大学医学部医学科で文武両道を実践するとともに、より一層充実した大学生活を送ることを期待しています。



了しました。三月下旬の弘前でも春の訪れを感じる記録的な暖冬の中、同日の午後七時からホテルニューキャッスルにおいて、医学部医学科第六十二回卒業記念謝恩会が開催されました。集合写真撮影後は、芸達者の藤田博陽君、杉山敦彦君による明快な司会で開幕しました。若林医学部長、佐藤学長の祝辞があり、藤哲病院長による乾杯の音頭がありました。会が始まると、各先生を囲み勉学やクラブ活動の思い出を振り返ったり、今後の進路について語り合ったりと、卒業生は限られた時間を惜しむように過ごしていました。会の途中では、ラグビー部による肉体系の余興や、恒例となった学長・医学部長とのジャンケン大会などで、会場は大いに沸き、あつという間の二時間が経ちました。最後に教授やご来賓の先生方が壇上に登り、卒業生から花束が贈られました。

一学年全員が集合する機会は、多分これが最後ではなからうと思います。弘前大学医学部医学科卒業という誇りを背負い、これからも切磋琢磨して、全国で活躍してくれることを願うものです。

平成 27 年度 医学科学位記伝達式

学務委員長 鬼島 宏 (病理生命科学講座 教授)



平成二十八年三月二十三日午後三時三十分から基礎大講堂において、平成二十七年学位記（医学士）伝達式（二十六年度一名、二十五年二名、二十四年度五名）新カリキュラムにより、学部四年次に研究室研修が組み込まれ、在学中から研究に触れる機会があるので、今後は一人でも多くの学生が研究活動で力を発揮してくれることを願っています。一方、課外活動（クラブ活動）は全般に盛んであり、被表彰団体をはじめとして各部活動がここ数年東医体等で好成績を続けているのは賞賛に値します。

今後も、学生諸君が弘前大学医学部医学科で文武両道を実践するとともに、より一層充実した大学生活を送ることを期待しています。

伝達式では、若林孝一医学部長が卒業生一人一人と固い握手をかわしながら、学位記の伝達が行われました。会場を埋め尽くした卒業生に加えて、保護者やご来賓の方々、さらには教育指導にあたった教員も、新たな門出の喜びを卒業生と共有しました。伝達式の後半では、若林医学部長から挨拶があり、高齢化社会の中での医療への期待の大きさに対し、プロフェッショナルとして実力を発揮していただきたい旨が強調されました。西澤鵬桜会理事長からは、同窓会の輪は全国に広がっていることなどの紹介がありました。会場には金屏風と見事な花が添えられ、男子卒業生の凛々しいスーツ姿、女子卒業生の華麗な袴姿、着物姿も加わり、厳粛な中にも華やかな雰囲気のもとで、式が終

平成 27 年度

入試及びAO入試を振り返って

入試専門委員長 上野 伸哉
脳神経生理学講座 教授

前任の鬼島教授より二月より医学科入試専門委員長を引き継ぎました脳神経生理学講座の上野です。実際に委員長として携わったのは前期日程入試からとなりますが、平成二十七年AO入試および前期日程試験の報告を致します。またお忙しい中、面接委員、試験監督、出題委員、採点委員をお願いした多くの先生方および学務をはじめとした事務職員の方々に深謝いたします。

本年は特に一般入試(前期日程)の志願者数が多く、千人近い人数となり、ここ数年十倍を超える倍率が続いています(表1)。試験会場として長期にわたりお願いしている弘前高等学校の収容能力を超えるのではなかつたかと危惧しました。実施八年目となるAO入試は、第一次選抜を平成二十七年十月三日・四日に行いました。「模擬講義試験」「個人面接」による評価を行い、受験者百二名から十八名を合格者とし、第二次選抜は十一月一日に「ケーススタディの自学自習」「ワークショップ」による評価を行い、大学試験センター試験の結果を合わせて、最終的に五十名の合格者を決定しました。青森県が四十二名(昨年は三十六名)、岩手県が五名、秋

田県が三名という結果でした。AO入試では、平成二十六年から受験可能な地域が東北六県・北海道に広がっていますが、残念ながら昨年に引き続き、AO入試の北海道の合格者はいませんでした。今後は、さらに多くの地域からAO入試による合格者が出ることを期待しています。

今年度の入学者(AO入試・前期日程合わせた)の出身地域をみますと(表2)、今年度は青森県出身者が四十九名と昨年度よりも五名増えましたが、ここ数年は四十名以上を維持しています。青森県出身入学者のうち四十二名がAO入

試ですが、前期日程でも七名合格となりました。青森県に次ぐのは、東京都の十四名、埼玉県十名、さらに岩手県の五名となりました。出身高等学校では、弘前高等学校十七名、続いて青森高等学校の十二名、八戸高等学校の九名となりました。一方、高等学校卒業後の期間に関しては、現役生・一浪生は合わせて八十一名でした(表3)。男女比に関して、女子が四十九名となり、昨年より八名増となっています。ここ数年は四十名以上を維持しています。

弘前大学医学部医学科では、AO入試、一般入試(前期日程)、学士編入試験(第2年次)の三つの選抜試験が行われています。平成二十八年度の入試予定において、大きな変更点として、学士編入の試験時期を十一月以降に繰り下げることを予定しています。表4にまとめ

平成二十七年年度ベスト研修医賞選考会が平成二十八年二月十八日十八時より、医学部臨床小講義室で開催された。ベスト研修医賞は平成十六年度から始まった卒業臨床研修必修化に合わせて本学に創設された賞です。平成二十八年年度に行われる入学選抜試験の予定をお知らせいたします。教員あたりの仕事量が増加していますが、入試業務は弘前大学の教員として根幹をなす仕事です。また医学部に入学する学生は卒業後にも、大学、地域医療機関で共に働く人材です。今年度も先生方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

表1. 志願者倍率(カッコ内は受験者倍率)

年度	AO入試	前期日程	計
23	2.20 (2.20)	12.31 (11.21)	8.46 (7.78)
24	2.70 (2.70)	13.20 (11.53)	9.20 (8.17)
25	3.03 (3.03)	13.34 (11.87)	9.49 (8.56)
26	2.10 (2.10)	13.40 (11.72)	9.18 (8.13)
27	2.17 (2.17)	13.67 (11.83)	8.85 (7.78)
28	2.50 (2.50)	15.39 (13.53)	9.63 (8.61)

募集人員：AO入試(すべて地域定着枠)は、平成25年までは定員40名、平成26年は42名、平成27年は47名、平成28年は50名。前期日程の定員は、平成21年が60名(うち青森県定着枠10名)、平成22年~平成24年が65名(定着枠15名)、平成25年が67名(定着枠17名)、平成26年が70名(定着枠20名)、平成27年が65名(定着枠15名)、平成28年が62名(定着枠12名)。

この結果、AO入試と前期日程を合わせた定員は、平成21年100名、平成22年~平成24年105名、平成25年107名、平成26年~平成28年112名となっている。

表2. 地域別入学者数

年度	青森県	東北5県	北海道	その他	計
23	40 (21/19)	13 (9/4)	5 (3/2)	47 (38/9)	105 (71/34)
24	41 (25/16)	12 (7/5)	4 (2/2)	48 (29/19)	105 (63/42)
25	42 (23/19)	10 (6/4)	4 (1/3)	51 (37/14)	107 (67/40)
26	46 (23/23)	15 (6/4)	2 (0/2)	49 (34/15)	112 (66/40)
27	44 (30/14)	17 (11/6)	5 (4/1)	46 (26/20)	112 (71/41)
28	49 (23/26)	12 (7/5)	1 (1/0)	50 (32/18)	112 (63/49)

カッコ内は男女比

表3. 高校卒業後の期間別入学者数

年度	現役	1年	2年	3年以上	その他
23	49 (30/19)	25 (19/6)	15 (9/6)	16 (13/3)	0
24	56 (34/22)	25 (14/11)	10 (6/4)	12 (7/5)	2 (2/0)
25	48 (23/25)	32 (23/9)	17 (12/5)	9 (8/1)	1 (1/0)
26	50 (25/25)	34 (23/11)	15 (11/4)	13 (7/6)	0
27	51 (32/19)	39 (21/18)	4 (2/2)	18 (16/2)	0
28	54 (23/31)	27 (17/10)	16 (14/2)	13 (8/5)	2 (1/1)

カッコ内は男女比

表4. 平成28年度中に行われる入試選抜試験日程(予定)

平成28年10月 1日(土) 10月 2日(日)	AO入試第1次選抜(出願書類、模擬講義試験、個人面接)
平成28年11月 6日(日)	AO入試第2次選抜(ケーススタディの自学自習、ワークショップによる評価)
平成28年11月27日(日)	学士編入学(第2年次)第1次選抜(学力試験)
平成28年12月18日(日)	学士編入学(第2年次)第2次選抜(ワークショップ、個人面接)
平成29年 1月14日(土) 1月15日(日)	大学入試センター試験
平成29年 2月25日(土) 2月26日(日)	前期日程選抜(学力試験) 前期日程選抜(個人面接)

・入試は、新入生が入学する時期で呼称されますので、平成29年度AO入試・平成29年度学士編入試験(第2年次)・平成29年度一般入試(前期日程)が実施されます。

平成27年度 ベスト研修医賞選考会

卒後臨床研修センター長 加藤 博之



ベスト研修医賞の投票を行なう学生諸君。



ベスト研修医賞選考会で研修医の発表に聞き入る参加者たち。

あり、今回で十二回目を迎える。当日は、あらかじめ卒後臨床研修センター運営委員会により優秀研修医に選ばれた、鈴木貴弘先生、丹藤利夫先生、原隆太郎先生、村林公哉先生(五十音順)の四名の研修医が、「ここがポイント! 研修医の心がけ」と題し、自分が研修生活の中で重視してきた事について、一人八分間ずつスピーチを行なった。聴衆は学生および教職員で、スピーチのあと参加した学生諸君による投票が行なわれた。投票の結果、丹藤利夫先生が、最も高い評価を受けた。原先生に「ベストパートナー賞」、研修医が提出すべき各種症例レポートを最も頑張った書き上げた藤岡一太郎先生に「レポート大賞」、この一年間の研修医向け各種セミナーの出席率が最高であった小田桐有沙先生と高橋佑果先生に「セミナー賞」が贈られた。さらに事務方からも、研修関係の事務手続きに今年最も迅速かつ正確に協力してくれた鈴木先生に、感謝の意を込めて「グッドレスポンス賞」が贈られた。つづいて懇親会に移ったが、五年生から恒例となった「ベスト指導医賞」の発表が本年も行われ、会場は大いに盛り上がった。学生五十二名以上職員を加え総勢七十名以上の参加者があり、教職員、



藤病院長と共に、ベスト研修医賞、優秀研修医賞の先生方。



藤病院長よりベスト研修医賞を贈呈される丹藤利夫先生。



ベスト研修医に贈呈されたメダル(純銀製)。

研修医、学生がみな、この一年の思い出について心ゆくまで語り合い、会は盛会裏に終了した。
本賞の本学独自のユニーク(次ページへ続く)

(前ページより)
クな特徴は、最終選考を学生が投票により行なうことであり、このことは教育上大きな意味を持っている。研修医と特に五年次学生は約一年にわたり研修・実習という日々の活動の場を共有し、いわば苦楽を共にしてきた間柄である。学生は研修医から多くを学ぶが、同時に研修医に対する格好の評価者ともなり得る。一方「Teaching is learning」

という言葉があるように、研修医にとって学生を指導することは重要な学びともなっている。医師の育つ過程には、このような卒業後に渡って双方向に作用する教育が不可欠である。別の言い方をすれば、医師は「人と人とのきずな」の中でしか育たない。これから本賞が、本学における人と人との結びつきを強固なものとするために役に立てば幸いである。

ベスト研修医賞を受賞して

研修医 二年目
(現・地域医療学講座 助教) 丹藤 利夫

この度、弘前大学医学部附属病院ベスト研修医賞を受賞いたしましたので御報告させていただきます。ベスト研修医賞は選考された四人の優秀研修医がBSLで病院実習中の五年生を中心に学生の前で研修生活について発表を行い、最終的に学生の投票によって選考されます。いずれの研修医の発表もとても趣向をこらしたもので、学生の反応も上々でとても素晴らしい発表会となりました。

今回、私が発表のテーマに選んだのは診療科選びでした。なぜこのテーマを選んだのかというと、BSLを回っている学生がどの診療科に進むか悩んでいる人が多いと感じていたこと、診療科選びを中心に研修医から話を聞く機会は少ないのではと思ったからです。

私はもともと内科を志望して医学部に入学しましたが、紆余曲折を経て眼科を自分の診療科として選択しました。医学系の研究職を経て三十歳を過ぎて医学部

に編入し、左利きで決して手先が器用ではない私は、手術のある診療科よりも理詰めで勝負できる内科に適性があると考えていました。それがなぜ全く興味のない眼科を選んだのかというと、答えは非常に単純で眼科の実習がとても楽しかったからです。豚眼を使った白内障手術の実習では水晶体を吸引していくのがとても気持ちよかったですし、硝子体手術で顕微鏡を通してみる眼底は神々しく、まるで宇宙空間にいるような錯覚を覚えてしまうほど綺麗なものでした。

と、答えるのは非常に単純で眼科の実習がとても楽しかったからです。豚眼を使った白内障手術の実習では水晶体を吸引していくのがとても気持ちよかったですし、硝子体手術で顕微鏡を通してみる眼底は神々しく、まるで宇宙空間にいるような錯覚を覚えてしまうほど綺麗なものでした。

そういった自らの経験を通して、診療科選びはその科の適性や将来性などで選ぶのではなく、シンプルに心から仕事したいと思う科を選ぶべきと発表しました。前職では金曜日になるのが楽しみで次の週の月曜日に職場に行くのが辛い日々でしたが、今は月曜日に来るのが待ち遠しい、そういう科を皆さんにも選ぶとうございました。

ベスト指導医賞のからくり ～受賞の語り～

附属病院輸血部 講師 玉井 佳子

昨年度医学部五年生から、「ベスト指導医賞」を頂戴致しました。現在クリニカルクラッシュに励んでいる六年生の皆さん、頑張っていますか!?その節は、ありがとうございます。

医学部ウォーカーをお読みの皆様に、少しご説明します。医学部五年生のBSL(ベッドサイドラーニング)は、学生が五〜七名の小グループに分かれ、大病院内の臨床部門と中央診療部門を数日から十日間ずつローテーションしながら実習します。文字通りベッドサイドで、患者さんに深く関わりながら学びます。

今までの机上の知識を実臨床と結び付けて、自分の心身を鍛え、初期研修医へ向かう基盤形成に重要な一年間です。そしてBSL終了時に、学生一名につき印象に残った数名の医師に投票

で欲しいと伝え、発表を終えました。学生の皆さんにベスト研修医賞に選んで頂いたということで、発表したことや学生の皆さんに伝わったことが何よりも嬉しく感じました。

最後に研修期間中、厳しくも優しく指導して頂いた内分泌代謝感染症内科、麻酔科、放射線科の諸先生方、今村クリニックの今村憲市先生にこの場を借りて御礼申し上げます、ありがとうございます。

これが、ベスト指導医賞のからくりです。内情を知っているながら、ずうずうしく賞を拝受して申し訳ありません。皆様の関わった一人一人の学生に、「私のなりたい臨床医」として慕われている臨床諸先生方に言い訳して、寄稿を終えたいと思います。

平成28年度 SD章授与式

学務委員長 鬼島 宏
(病理生命科学講座 教授)

平成二十八年度SD(Student Doctor)章授与式が、平成二十八年三月三十日に基礎大講堂にて挙行された。授与式では新五年次

学生が、医の倫理に従って行動することを誓うことで、臨床実習(Bed side learning, BSL)を開始するという大きな意義があります。臨床実習では、医療現場で患者さんの前に立たせていただくことの責任の重さと、診療行為を通じて医学を学ばせていただくことへの感謝の念を持ちながら、医療チームの一員として真摯に行動することが求められています。

本学におけるSD章授与式は、加藤博之教授(総合診療学講座)の発案で、平成十七年度から始まり、今回で十一回目となります。さらに昨年度からは、共用試験(Computer Based Testing CBT、およびObjective Structured Clinical Examination OSCE)の合格者に対して、全国統一質保証システムの一環として、全国医学部長病院長会議がSD認定証を付与することとなりました。つまり、SD章は、臨床実習生の身分証(ID)であると同時に、臨床実習を開始するための必要な知識と技能を身につけた証でもあります。

授与式では五年次学生全員がBSLユニフォームとしての白衣姿で臨みました。初めに若林孝一医学部長と学務委員長の挨拶があ

り、次いで福田眞作附属病院長(四月一日付就任)訓示の後、五年次学生代表の伊賀千紘さんに病院長からSD章が授与されました。授与式には学生がOSCEでお世話になった模擬患者の方々や附属病院関係者も参加され、SD章を授与される学生を温かく見守ってくださる姿が印象的でした。最後に、伊賀千紘さんが学生を代表して、以下の「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」を宣誓しました。

1. 私は、人類への奉仕に自分の人生を捧げることを誓います。
2. 私は、学び得た医学知識をもとに、良心と尊厳をもって医学の務めを果たします。
3. 私は、生命の始まりから人命を最大限に尊重し続けます。また、人間の性の法理に反して医学の知識を用いることはしません。
4. 私は、患者の健康を私

の第一の関心事とします。私は、私への信頼のゆえに知り得た患者の秘密を、たとえその死後においても尊重します。

なお、この「誓い」を常に心に留めて臨床実習に臨むよう、付与されたSD章の裏には、「誓い」が印刷されています。SD章授与式の目的を十分に理解して、五年次から始まる臨床実習に真摯に取り組んでほしいと思います。

平成28年度 弘前大学医学部解剖体慰霊祭

生体構造医学講座 教授 下田 浩

弘前大学医学部および附属病院において系統解剖、病理解剖および法医学解剖のために御遺体を捧げられました百九十三柱の御霊に対して弔意を捧げるため、平成二十七年弘前大学医学部解剖体慰霊祭が五月十三日午後一時三十分より弘前市文化センター一階大ホールで挙行されました。慰霊祭にはご遺族三十八名ならびに本学白菊会会員三十一名の方々にご臨席賜り、また各方面から多くのご来賓をお迎えし、医学

科および保健学科の教職員と学生が参列してしめやかに執り行われました。式に先立ち、弘前大学医学部管弦楽団による献体者慰霊のための演奏が行われ、会場全体が厳かな空気に包まれました。まず初めに参列者全員による黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。続いて、昨年から本年の慰霊祭までに医学の教育と発展のために御献体された方々のご芳名が奉読されました。そして、若林孝一医学部長より祭詞が述べられましたのに引き続き、医学科三年生の若林直人さんが学生代表として、ご献体いただきました諸霊に対する感謝とご遺族への御礼の意のこもった弔辞を捧げました。その後、若林医学部長、大門眞附属病院長代理、木田和幸保健学科長、医学科三年生の高橋愛美さん、保健学科三年生の高桑奈緒美さん、奥田稔白菊会理事長による代表献花が行われ、大門附属病院長代理よりご参列頂きました方々

の第一の関心事とします。私は、私への信頼のゆえに知り得た患者の秘密を、たとえその死後においても尊重します。

授与式では五年次学生全員がBSLユニフォームとしての白衣姿で臨みました。初めに若林孝一医学部長と学務委員長の挨拶があ

り、次いで福田眞作附属病院長(四月一日付就任)訓示の後、五年次学生代表の伊賀千紘さんに病院長からSD章が授与されました。授与式には学生がOSCEでお世話になった模擬患者の方々や附属病院関係者も参加され、SD章を授与される学生を温かく見守ってくださる姿が印象的でした。最後に、伊賀千紘さんが学生を代表して、以下の「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」を宣誓しました。



(次ページへ続く)

(前ページより)
への御礼の言葉が述べられました。最後に、参列者全員が献花を行い、慰霊祭は滞りなく終了いたしました。慰霊祭終了後、医学部教職員はご遺族ならびに白菊会会員の方々とともに弘前市墓地公園にある医学部納骨・埋骨施設に参拝し、献体者名簿を納めました。その後、黙祷を捧げ、医学部長、白菊会理事に続き、参列者による献花を行いました。筆者より参列して頂きまして、参拝式は無事終了いたしました。



当日の墓地公園は見渡す限りにさわやかな青空が広がる光景を参列者に与えてくれました。日常の喧騒を一時でも忘れさせてくれるような穏やかな午後でした。

医学科教育 F D

学務委員長 鬼島 宏
(病理生命科学講座 教授)

平成二十八年三月四日に医学科教育 F D (Faculty Development) が開催されました。今回の F D は、(1) 新しい教養教育―特に「地域学ゼミナール」について

学年	1年(前期)	1年(後期)	2年	3年	4年
地域に関する科目	選択必修 ローカル科目群	必修 地域学ゼミナール	選択必修 学部越境型地域志向科目群		
キャリア教育		必修 キャリア形成の基礎	選択必修 キャリア形成の発展科目群		
地域特定プロジェクト			地域特定プロジェクト志向専門人材育成のための教育プログラム		

文部科学省 高大接続システム改革会議

入学選抜法

1. 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の結果
2. 自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法
3. 調査書
4. 活動報告書(個人の多様な活動・ボランティア・部活動・各種団体活動等)
5. 各種大会や顕彰等の記録、資格・検定試験の結果
6. 推薦書等
7. エッセイ、大学入学希望理由書、学修計画書
8. 面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション
9. その他

「(1)新しい教養教育―特に「地域学ゼミナール」について」文部科学省「(地)知」の拠点整備事業(大学 C O C 事業)の採

明があり、議論が交わされました。

(2)医学科入試の現状と入試改革(前医学科入試専門委員長 鬼島)に関しての説明

力・表現力等の能力、(c)主体性を持つて多様な人々と協働して学ぶ態度が大切であることが呈示されました。これを受けて医学科平成二十九年入学選抜法では、(A) 学士編入試験において、英語の外部試験(TOEFL)・ワークシヨップが導入されること、(B)一般入試(前期日程)が、数学・英語・自己推

力・表現力等の能力、(c)主体性を持つて多様な人々と協働して学ぶ態度が大切であることが呈示されました。これを受けて医学科平成二十九年入学選抜法では、(A) 学士編入試験において、英語の外部試験(TOEFL)・ワークシヨップが導入されること、(B)一般入試(前期日程)が、数学・英語・自己推

若手教員・医師だより

附属病院 神経科精神科 講師 斉藤 まなぶ

私は平成十二年卒業の精神科医です。専門は児童精神医学。大学入学前は外科系の看護師でしたが、医学部時代に精神科に魅力を感じ入局しました。精神科の研修は、自由度が高くかつ手厚い指導が特徴で、私自身は学生時代に結婚し二児の母でしたが、指導医の先生方のご指導により精神保健指定、専門医、学位と順調に取得できました。勤務も特に当直免除等なくとも、仕事との両立は何とか可能でした。



平成十九年からは児童思春期診療を担当しました。児童思春期の心性は発達という時々刻々と変化する脳の成長を踏まえて言動や行動を判断する必要があります。成人の精神科治療と比べると診断をかなり柔軟で曖昧な概念で捉えるため戸惑いの連続でした。しかし、一時的な激しい混乱の後、劇的な回復を見せる子どもも少なくなく、子どものレジリエンスには驚きを覚えませんでした。時には虐待など理不尽な出来事に、やり場のない

怒りがこみ上げることもありましたが、生きる意味を必死に探す子どもたちに逆に励まされることも多々ありました。

未診断の自閉症スペクトラム障害(ASD)の受診が増加し、予防的な介入を模索していたころ、平成二十五年一月に自閉症の生物学的研究が御専門の中村和彦教授が当講座に就任され、発達障害へのアプローチが急展開しはじめました。平成二十六年度から弘前市五歳児発達健診での疫学調査が開始となり、幼児に非侵襲的かつ正確で効率

青森 あずまし 温泉紀行

鬼島 宏
(病理生命科学講座・教授)



多くの温泉には、回数券があるのをご存知かと思えます。各温泉が独自の回数券を作っているようで、そのデザインにも温泉文化を感じてしまいます。今回巡る西北地域の湯には、回数券からの出会いもありました。

【訂正お詫言】これまで連載で、標記などに誤りがありました。以下の通りに訂正いたします。ウオーカー70号(紀行②)石坂洋次郎。ウオーカー74号(紀行⑥)山田温泉(第二十三湯)。ウオーカー75号(紀行⑦)東北温泉(第二十四湯)。東北温泉(第二十四湯)。上北さくら温泉(第二十五湯)。八甲温泉(第二十六湯)。宝温泉(第二十七湯)。ウオーカー76号(紀行⑧)ほとけ沢温泉(第二十八湯)。野沢温泉(第二十九湯)。はちのへ温泉(第三十湯)。熊の沢温泉(第三十一湯)。

広田温泉(第三十二湯)五所川原市広田(二十二時迄)は、国道10号から住宅内に入ったところにあります。薄褐色調のナトリウム・塩化物泉が湯口から豊富に注がれ、惜しげもなく浴槽から溢れている湯質は、最高の一言に尽きます。湯に浸ると、肌には適量の泡がまとわりつき、温まることこの上なしです。

あづましの里温泉(第三十五湯)つがる市木造藤田(二十三時迄)は、旧木造町にある施設名「いい湯だな」で、夜遅くまで営業しており、ありがたい存在です。豊富な湯量の緑褐色のナトリウム・塩化物泉が、浴室中央の大きな湯船に注がれており、手足を伸ばして入れれば、すぐに温まり肌もつるつるとなります。

浴場には、定義があるのをご存知でしょうか。温泉は、温泉法により規定されている一方、公衆浴場(大衆浴場)は、公衆浴場法で規定されています。このうち、普通公衆浴場(通称「銭湯」)は、「日常生活における保健衛生上必要な入

が特徴的です。医学部ウォーカー72号で紹介した百沢温泉(第十一湯)・あたご温泉(第十四湯)および広田温泉(第三十二湯)とで共通回数券となつていますが、この四湯の温泉力は、強力そのものです。

夢野温泉(第三十四湯)五所川原市持子沢(二十一時半迄)は、狼野長根公園の近くの国道10号沿いで、昭和を感じさせる看板が目に入りま

浴のために設けられた公衆浴場」と定義され、都道府県条例(物価統制令)で入浴料金が定められていますが、多くの銭湯が経営努力で、条例入浴料金以下の料金設定という粋な計らいをしています。また、物価統制令を受けない「その他の公衆浴場」にスーパー銭湯や健康ランドが含まれます。あづましの里温泉は、スーパー銭湯の外観ですが、銭湯(普通公衆浴場)です。因みに、津軽最北の純粋な銭湯は、小泊の浜の湯(番外湯)・中泊町小泊(土曜定休 二十時迄)です。太宰・津軽の旅の最後には、ぜひ入浴ください。



(前ページより)
を研究しています。
ここ数年、啓蒙の影響か
受診する児童が若年化して
います。重篤な問題に発展
する前に、子どもへの理解
を深めたいという親御さん
が増えており、我々として

は望ましい姿と考えていま
す。心残りも数年の医師
不足で後継者が育っていな
いこと。最近では学生たちが
興味を示して教室に入入り
しており、今後入局者が増
えることを期待していま
す。

第110回医師国家試験結果ならびに
平成27年度卒業生進路状況

学務副委員長 袴田健一
(消化器外科学講座 教授)

第百十回医師国家
試験は二月六日から
八日に実施され、そ
の結果が三月十八日
厚生労働省から発表
されました。本年は、
全国受験者数九、四
三四人に対して合格
者数は八、六三〇人
で、合格率は九一・
五%。このうち、新
卒者の合格者数は
八、一六五人で、合
格率は九四・三%。
前年の九四・五%と
ほぼ同様でした。
一方、本学新卒者
の合格率は九五・
九%(一一六/一二
一人)で、昨年の九
三・九%(一〇八/
一一五人)ならびに
本年の全国平均を上
回りました。まずは、
卒業生諸君の健闘を
讃えたいと思いま
す。

H23～H27 卒業生進路状況

Table with 5 columns for graduation years (H23-H27) and 2 sub-columns for number of graduates and percentage. Rows include various regions like Hokkaido, Tohoku, Kanto, etc., and a total row.

療参加型臨床実習の充実を
図るとの国の意向に沿った

の出題が増加し、これは診
問は実務に即した出題
や、common diseaseから

関連病院勤務報告

「地域の病院で研修して」

『青森を選んだ理由と、そのすすめ』

附属病院内分泌内科、糖尿病代謝内科、感染症科
医師 遅野井 祥

研修病院の選択は大変悩
みました。茨城県水戸市出
身、旧友は関東に多いこと
もあり、卒業後は有名研修
院で先端医療を学びなが
ら、新宿で遊ぶ、と思っ
ていたのは大学五年の冬、
初春のことです。しかし、
様々な病院を見学しまし
たが、いずれのプログラムに
も心酔できない一方で気づ
形です。これらのことを念
頭に置いて、現在臨床実習
中の五年、六年生諸君は合
格率一〇〇%を目指して頑
張っていただきたいと思
います。

続いて、卒業後初期臨床
研修先の地域別進路状況を
報告します(付表)。青森
県内の研修先四一・三%、
東京以外の関東地方一七・
四%、青森以外の東北地方
一五・七%と、ここ数年の
傾向に変化はありませんで
した。
卒業後臨床研修センター加
藤教授の集計によると、初
期臨床研修を修了し、本年
度弘前大学で後期研修を開
始した方は四十四名に及ぶ
そうです。二〇一七年度か
らは新・専門医制度が開始
され、基本領域の専門医研
修の多くは大学を基幹施設
とするプログラムのもとで
行われることとなります。
初期研修のみならず、後期
研修先を見据えた進路選択
が求められる時代です。



青森県立中央病院での研修

青森県に残って

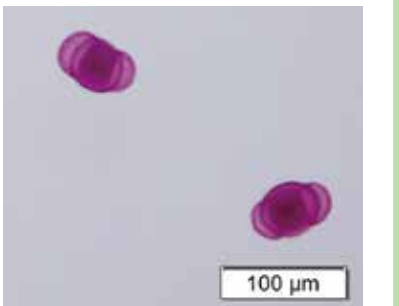
弘前市立病院 整形外科 藤田有紀

私は平成二十二年に弘前
大学医学部を卒業後、県内
で初期研修をし、整形外科
学講座に入局し、現在弘前
市立病院整形外科で仕事を
させてもらっています。今
回は、県外から青森県に來
てそのまま県内で仕事をし
ている人というテーマで話
をするようお話をいただき
ましたので、私の思ってい
ることをお話しさせていただきます。
私は愛知県に生まれ育
ち、大学受験の際に弘前に
来ました。六年生になり研
修先を選ぶときに、将来に
ついて悩みました。生まれ
育った町、親のことを考え
ると地元に戻るべきかとも
思いましたが、結局は県内
に残ることにしました。そ
の後結婚・出産し、現在は
三歳の三つ子と旦那の家族
と一緒に協力してもらいな
がら、仕事もさせてもらっ
ています。
県内に残った一番の利点
は、人とのつながりがある
ことです。大学の友人や先
輩、実習の間にお世話に

りました。
また、六年間の学生生活
では多くの出会いに恵ま
れ、とくに病院や研究室の
先生方と関わらせて頂くよ
うになってからは、青森
県への愛着が強くなり、
離れるのが惜しいと思うの
も本心でした。地方という
ハンディはJALやAma
zonプライム、自らの志
で克服することと誓い、私
はこれまでの出会いを大切
にするため青森県に残りま
した。そして中核病院とし
て豊富な症例が集まり、E
R式救急で研修医が診療を
主導できる県立中央病院で
研修させていただき、多く
患者さんに学び、生涯の恩
師を得、かけがえのない同
期と忙しく楽しい日々、最
高の思い出を作ることがで
きました。母校の近くだか
らこそより積極的になれた
し、若さや小さなミスは許
され、成長を見守っていた
だけたのかもしれない。
「医師になる場所」とし
て住み慣れた青森県を選
び、のびのびと研修されて
みてはいかがでしょう。
会と違い、県内どこにいて
も基本的に地域医療です。
私は整形外科を選択しまし
たが、診療をしていると患
者さんは他科にわたる訴え
をします。その際にも知り
合いの人がいると相談でき
たり、患者さんを紹介でき
たり、そうした中でまた患
者さんとの関係を築いけて
いるのではないかと考えて
おります。また、私は大学
時代から陸上をしていまし
たが、整形外科の先生や学
生時代にお世話になった
人々の協力もあり、今でも
陸上の検診などで陸上と関
わる機会をいただいている
のも、人づきあいがあって
こそ、だと思えます。今で
は自分が学生時代にお世話
になった先生方に、自分の
子供も含め成長をみていた
だし、声をかけていただけ
ることもうれいのです。
地元を離れてさみしいこ
ともありますが、今後も当
分は青森県内で、優しい人
たちと助けられながら、仕
事と育児をしていければい
いと思っています。

弘前市周辺のアレルギーの原因になる植物
トンボの目玉? マツ花粉
耳鼻咽喉科学講座 教授 松原 篤

耳鼻咽喉科のアレルギー班で
は、弘前大学医学部研究棟の屋上
に、花粉を集める花粉捕集器を設
置して毎年スギ花粉の飛散調査を
行っています。スギ花粉飛散が終
了する5月中頃になると、スギ花
粉の倍ほどの大きさで、両側に二
つの丸い突起のついたこんな変
わった形の花粉が観測されます。
とっても目を引く花粉で、この二
つの突起は花粉が空を舞うために
役立つ空気袋です。まるで飛行船
みたいですが、これはマツの花粉
で5月から6月頃までが飛散の
シーズンです。この時期に、マツ
の木の下にしばらく車を停めてお
くとボンネットに黄色の粉がうっ
すら積もったりします。この花粉
が原因になるのがマツ花粉症で
す。スギ花粉に比べて粒子が大き
くて目立つ割には、あまり遠くま
で花粉が飛びません。鼻に吸い込
む花粉数も少ないためか、スギ花



粉症に比べてマツ花粉症を患う方
はごく少数です。しかし、近くに
マツ林があるような方では発症す
ることがありますので、くれぐれ
もご注意ください。
ところで、小欄にはこの花粉は
とんぼの目玉に見えるのですが、
家族に聞いたところ……コアラ
か、はたまたチェブラーシュカ
か、といった答えが返って来まし
た。読者のみなさんには何に見え
るでしょう?



医局内研修会での集合写真

病態薬理学講座

病態薬理学講座 助教 瀬谷和彦

病態薬理学講座の歴史は、一九四四年の青森医学専門学校開校時に遡り、加藤義雄氏を薬理学教授として迎えることで発足しました。その後一九五一年の弘前大学医学部開設と共に医学部薬理学講座として開講され、二〇〇七年の大学院部局化により現講座名となりました。初代 角田幸吉教授から、石見貞治教授、藤田昂教授、元村成教授、

そして二〇一二年より五代目村上学教授と引き継がれております。

講座ではイオンチャネルの情報伝達系と循環器、あるいは石灰化の機序解明に力を注ぎ、個体・組織レベルから分子レベルまで広範囲に研究を進めています。研究内容は左記の通りです。

1. カルシウムチャネル関連の情報伝達異常による慢性心不全・心筋症発症機序の解明

慢性心不全は予後不良であり、五年生存率は悪性新生物と同等です。現在も心不全の発症メカニズムや根本的治療は不明です。カルシウムイオンバランスに影響を及ぼす遺伝子を改変したマウス、あるいはゼブラフィッシュなどを用い、カルシウム情報伝達機構を探求しております。

2. 異所性石灰化機序の解明

異所性石灰化は、カルシウムやリンのバランス異常によりカルシウムの体内沈着が起こりやすくなる病態です。本講座では、異所性石灰化を特徴とする大動脈弁狭窄症や脊柱後縦靭帯骨化症に注目し、遺伝的背景やその発症、進展に深く関与すると考えられている環境因子を明らかにしようとしています。

二〇一六年四月、小湯佳輝助手が着任しました。小湯先生は、アンジオテンシンIIの糖尿病性神経障害性疼痛への関与を研究しており、行動薬理学と分子薬理学を併せた研究を展開しております。

教育面では、医学部の薬理学教育の他、古川賢一准教授が保健学科の薬理学教育を担当することを始めとして、幅広く教育に従事しています。地域に根ざした薬理学を目指しております。



耳鼻咽喉科学講座

耳鼻咽喉科学講座 教授 松原篤

耳鼻咽喉科学講座は、弘前大学医学部の前身であった青森医学専門学校教授を一九四七年から務めた片桐圭一教授を初代教授として、一九四九年五月に新制弘前大学医学部設置当初から開講されました。その後、一九六二年七月から栗田口省吾教授、一九七七年七月から朴沢二郎教授、一九九三年四月から新川秀一教授が代々講座を主催してきました。そして、二〇一四年八月から五代目の教授として松原篤が新たに講座を担当することとなりました。また、その間にも当講座から信州大学に宇佐美真一教授、山形大学に欠畑誠治教授を輩出し、本邦の耳鼻咽喉科学の発展に寄与してきました。

耳鼻咽喉科学は、一見すると耳・鼻・のどの狭い部位を対象としているマイナーな診療科のように思われがちですが、実際にはとても幅広い領域をカバーしており、そのために一般外来だけでは対応できず、多くの専門外来を開設しています。真珠腫性中耳炎や慢性中耳炎など手術が必要な中耳炎に対応する中耳外来、咽喉頭癌や舌癌など頭頸部の悪性腫瘍に対応する頭頸部外科、突発性難聴や

顔面神経麻痺などの神経疾患に対応する神経耳科外来、アレルギー性鼻炎や好酸球性中耳炎などの免疫アレルギー疾患に対応するアレルギー外来、高度な難聴者に対して補聴器や人工内耳で対応する難聴・補聴器外来、その他にも内視鏡外来やC-P-A-P外来があり、講座のスタッフはこのうちの二つ以上の専門外来に所属して診療にあたっています。手術に関しても、顕微鏡



を用いた微細な中耳手術や声帯手術、内視鏡下の中耳手術、機器の発展とともに導入されたナビゲーションシステム下の内視鏡手術や、外視鏡手術など先端の医療に積極的に取り組んでいます。頭頸部癌に関しては、病巣の全摘をめざすダイナミックな根治・再建手術や、放射線科の協力により正常組織への障害を減少させるためのIMRT、強力な抗腫瘍薬の併用によるCRTなど、患者のステータスやQOLを考慮して最適な治療法を選択するように心がけています。

研究面においては、臨床研究として頭頸部癌領域ではJCOGや、耳科領域では厚労科研の難治性聴覚障害に関する調査研究班など国内の多施設臨床研究に積極的に参加しています。基礎研究では、難治性中耳炎として注目されている好酸球性中耳炎のモデル動物を世界に先駆けて作成し、中耳および内耳病変の解明を進めています。

コラム 医学部こぼれ話

とある学会で文化講演を聞く機会があった。タイトルは「日本のお国柄」であったが、講演の中で日本の皆保険制度が世界一であったことをあげ、これが維持できたのは日本の医師の献身的働きであったと述べていた。我々聴衆に対する社交辞令もあるだろうが、医師に限らず日本人は皆勤勉で献身的である。また、東日本大震災後の初動から、石巻赤十字病院が「患者は断らない」という方針を掲げた事例もあげ、医療従事者自身が被災しているにもかかわらず病院に寝泊まりし診療を続けたことなど、他国から見ると驚き

きよつである。ところで以前、医学生と将来の希望診療科について話をしたことがあった。ある学生曰く「自分のQOL」を大切にしたいので、暇な〇〇科を考えています。これを聞いて驚いた。もちろん暇な科などはないはずもないが、Quality Of Life (生活の質) は患者さんに使うものだと思っていた。確かに我々には時間的余裕も無く、世間のQOLとは無縁かもしれない。しかし、医師の喜びは治療後に患者さんや家族が見せる笑顔にあり、これが究極のQOLである。

部活動紹介

バドミントン部

医学科四年 岸 田 匠 平

私たちが医学部バドミントン部は、現在男子二十名、女子十三名の計三十三名で活動しています。基本的に年中通して、火、木、土、日の週四回練習に励んでいます。さらに、土曜日と日曜日は本練習後に自主練習を行っています。部員の多くがこれに参加し、時には部員同士でアドバイスし合いつながりながら練習に取り組んでいます。また、バドミントンだけでなく、キャンプなどのイベントも多々あり、部員同士の親睦を深めています。

主な大会は、医学科の部員は年に北医体と東医体、保健学科の部員は、北医体と北保体があり、すべての大会が、部員全員出場可能です。経験者、未経験者どちらも練習の成果を発揮できる場があることも、我が部の特徴のひとつと言えるかもしれません。ところで、弘前大学医学部バドミントン部は昨年、創部五十周年という節目の年を迎え、全国各地からOB、OGの先生方にお越しいただき、五十周年記念祝賀会が盛大に執り行われました。先生方との交流を通して、先生方の御支援のおかげでバドミントンを思う存分できています。先生方が代々バドミントン部のために尽力されてきたからこそ今の部があること、そして、現役部員の活躍をとても期待されていることを実感しました。

一見、大学のバドミントン部というとなんとなく、経験者ばかりなのではないか、という印象を受けるとおもいますが、我が部では、初心者始めの部員も多数在籍しています。初心者には、先輩が丁寧に教えたり、特別メニューを組んだりして技術の向上を図っています。部内には、お互い気軽にア



さて、テニスというとなんかイメージが怖い、錦織圭選手



ソフトテニス部

医学科四年 廣 澤 瞬

弘前大学医学部ソフトテニス部は、医学科・保健学科あわせて男子三十六人、女子三十一人が所属し、男子は週四回、女子は週三回の練習に取り組んでいます。部員には小学生からソフトテニスを続けてきた人や大学で始めた人、運動部が初めての人まで様々な人がいます。そのようなかで、私たちは互いに教えあひながら上達し、初心者も経験者に引けを取らない活躍をしています。

ために尽力されてきたからこそ今の部があること、そして、現役部員の活躍をとても期待されていることを実感しました。現在、私たちは、北医体の男女団体優勝、各部門の個人戦入賞を目標にして練習に励んでいます。昨年の北医体では、男子団体第三位、女子団体第三位という結果でした。今年は、去年の悔しさをバネに、部員一丸となって目標を達成したいと思っています。

シユは見ごたえがありますね。一方ソフトテニスは一見地味なスポーツに見えても思いが詰まっています。コートに立体的に用いた試合展開や、目まぐるしく入れ替わる攻防の中で行われる相手との駆け引きはソフトテニスならではの要素であり、非常に奥が深く面白い競技です。私たちはそのようなソフトテニスの面白さを互いに共有しあい、団体戦優勝という大きな目標に向かって日々努力しています。

皆さんは漢方医学について、どんなイメージを持っていますか？本場に効くのか怪しいと思う方や、体に優しいそう、副作用がなさそうといったイメージをお持ちの方もいるかもしれません。大学では西洋医学の講義が中心で、四年生に一部漢方の講義もありますが、あまり触れあう機会がありません。

漢方医学研究会

医学科四年 河 合 由 璃

私たちが参加している主な大会は、春の北日本医歯薬看護学生体育大会、夏の東日本医歯薬看護学生体育大会、秋の秋季リーグの三つ。平成二十七年度は、北日本医歯薬看護学生体育大会にて男子団体準優勝、東日本医歯薬看護学生体育大会にて女子団体準優勝、秋季リーグにて保健女子団体準優勝という結果を残しました。個人戦でも多くのペア

が上位に食い込んでいます。昨年度の成績は上記のように華々しい結果を出すことができませんでした。その中でもあと一歩及ばず惜敗した試合も数々ありました。今年度も、部の仲間とテニスができることに感謝し、他大学の選手や部員同士で刺激しあいながら部員一同一丸となってテニスに打ち込んでいきたいと思っています。

弘前大学 後援会のご案内

会長 石戸谷 忻一

弘前大学後援会では、学生の学業、課外活動への助成、学生の進路指導に必要な助成等学生生活の多岐にわたる分野の助成を行っております。つきましては、何卒本会の趣旨に御賛同頂きまして、各位の格別の御高配、御支援を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

なお、入会方法等の詳細については、弘前大学総務部 広報・国際課 (Tel : 0172-39-3012、E-mail : jm3012@hirosaki-u.ac.jp) までご連絡いただくか、弘前大学後援会ホームページ (<http://www.hirosaki-u.ac.jp/kouen/index.html>) をご覧ください。

漢方薬が臨床の場で使われているのも事実です。私たち漢方医学研究会ではそういった疑問を解決し、将来漢方を治療の選択肢として考えられる医師になれるよう日々学習を続けております。



東北大学漢方内科の高山先生の講義、全体の交流会など内容盛りだくさんで行っています。今年の開催は岩手医科大学で、弘前大学からも参加予定です。十月の総合文化祭では漢方喫茶を毎年出店しています。珍しい中国茶や生薬の原料となるものを使ったお菓子の販売を通して、少しでも漢方医学に興味を持っていただけるよう工夫しています。また、今年度は薬研を展示し、ゴマをすりつぶす体験も行っていました。部員は現在五十名程で、ただ勉強するだけでなく、お花見や薬膳料理を食べに行くなど和気あいあいと活動しております。少しでも漢方医学に興味があるという方は一緒に勉強してみませんか？お待ちしております。



SMU 図書館のリニューアル式典。奥のゲストの青い女性はローラ・ブッシュ元大統領夫人。

なのです。それで、喘息患者のストレスによる様々な影響を研究しているこの講座に留学することとなりました。"psychology" というフロイトさんとかユングさんとかのイメージが

解するのはすぐにあきらめ、日本から SPSS の解説書を取り寄せてようやく使えるようになりまし

「これはうまい！」と行ってアメリカ料理店に連れて行ってもらいました(私は自転車生活なのです)。パーベキューの店なのですが、

今回、医学科一年について振り返るということ、昨年度の学生生活を自分なりに言葉にしてみようと思

二十代最後の年になって始まる、初めての大学生活。高校は通信制でしたので、まともな学校生活が何

「医師になる覚悟のないものは、解剖学実習を受けないべきではない。」事前の説明会での一言で、その場の

く、血管や神経などは複雑な構造をしているのに、無駄が一つもないのだ。人体とはなんて繊細で美しいものか、と素直に感動した。

弘前の皆さんこんにちは。病院の方にはおなじみの齋藤です。私は現在、米国テキサス州、ダラスにある Southern Methodist University (SMU) のな

何、その分析を知らない?じゃあこの本を貸してあげよう!と分厚い統計学の教科書を渡され、呆然としたのを覚えています。英語でしかも統計学: SPSS と

「これはうまい！」と行ってアメリカ料理店に連れて行ってもらいました(私は自転車生活なのです)。パーベキューの店なのですが、

また、部活動では、中学や高校に引き続いて卓球部に入学した。特に高校のときは勝利を求めて結構真剣に練習していたのだが、大

「医師になる覚悟のないものは、解剖学実習を受けないべきではない。」事前の説明会での一言で、その場の

く、血管や神経などは複雑な構造をしているのに、無駄が一つもないのだ。人体とはなんて繊細で美しいものか、と素直に感動した。

留学だより
臨床検査医学講座
准教授 齋藤紀先

なのです。それで、喘息患者のストレスによる様々な影響を研究しているこの講座に留学することとなりました。"psychology" というフロイトさんとかユングさんとかのイメージが

学生だより
一年間を振り返って
医学科二年 松田 涼太郎

私にとって、興味のある授業を自ら選べる大学の授業はとても楽しいものでした。人よりほんの少しですが多く授業を取り、そのために本町キャンパスと文京

解剖学実習を振り返って
医学科三年 堀内 みちる

(前ページより)
いものであることは十分わかってきた。しかし、不安感がなかったかと言われれば嘘になるかもしれない。それでも、医学の発展のために自らの肉体を提供してくださった方の、勇気に私たちは、大いに奮起させられた。

御献体の方は、名を知ること、話したこともない。しかし、解剖という名の対話を介して、私達が追求すればするほど、それに真摯に答えてくださった。これは医学生でなければ味

解剖学実習を振り返って

医学科三年 若林直人

解剖学実習を振り返ってみると、それは医学生として勉学に励む今の自分の原点であったように思う。未だ、医師を目指す学生であるという自覚に乏しかった自分を大きく変えるきっかけであった。

解剖学実習で解剖させていただく御献体は篤志献体であり、そこには本人やご家族の思いが詰まっている。その大切なお身体にメスを入れるということは、自分は医師になりその人たちの思いに伝える義務を負うのだ、と強く感じた。これは、実習説明会でも教授がおっしゃっていたことだが、実際に解剖をやってみるとその言葉の意味を強く感じた。また、実習前には、やはり、恐怖のような気持ちは少なからずあったし、こんな自分にもきちんとできるだろうかといった不安もあった。しかし、解剖が始まってしまえば、限られた時間の中で学ぶことは無

わうことのない感覚だろう。自分達にとっては一生忘れられない経験であり、医師としてのスタート地点によりやく立たされたのだ。

実習を終えて楯に納め、最後の別れを言ったとき、ふと胸の奥が熱くなり、涙が流れた。解剖学実習を通して私達はまた一歩、成長させてもらったのだ。与えていただいた様々な知識をもとに、多くの人々にそれ還元できるような医師になりたいと強く感じた。

解剖学実習を振り返って

医学科三年 高橋愛美

一年次から無事進級し、いよいよ待ちに待った専門科目が始まった。解剖学実習は、二年次での学習の中でも、最も印象に残った科目の一つとなった。三か月という短い期間ではあったが、人体に関するできる限り多くの知識を学ばせていただくことができたのはもちろんのこと、知識以外にも実習を進めていくうちに実感することが多くあり、ご献体との関わりを通して、今までほんやりしていた医学生としての自覚や責任感も自然と芽生えてきた。

解剖学実習を通して学んだことのひとつとして、人体の構造、例えば各臓器を始めとした筋肉、神経、血管などは、ある一定の秩序を持って存在しているということ、そしてその秩序を保つ中でも一人一人個性があるということが分かった。よく考えると当たり前なことなのかもしれないが、私たちの顔や性格に個性があるように、体の細部の構造にも個性があるのだというところに気付かされ、非常に興味深く感じた。

そして、自らの手で解剖

進めさせていただき、この目で確認していくことを繰り返していくことにより、より明確な知識を得ることができた。いままでも直接見たことがなかった血管や神経などの各器官が、どういったものであるのか、実感することもできた。このような「実感」を伴う学習を行っていくことにより、人体の構造についてより明確に理解し、深く記憶に残すことが出来たのだと思う。

最後に改めてお話ししたい。私たちが医学生に期待を込めて自らの意思でご献体してくださった方々やそのご家族の皆様、本当にありがとうございます。私たちはこの解剖学実習で得た多くのことを基盤に、そして皆様の思いを胸に学び続け、社会に貢献できるような医師になろうと思えます。

解剖学実習を振り返って

医学科三年 豊見山 良介

解剖学実習の初日、私は正直あまり実感のわかないまま実習室の扉をくぐりました。しかし、ご遺体を包む布を外してそのお顔をはじめて拝見したとき、やがて不安や覚悟といったような感情がめぐってききました。目の前で横になってい

解剖学実習の初日、私は正直あまり実感のわかないまま実習室の扉をくぐりました。しかし、ご遺体を包む布を外してそのお顔をはじめて拝見したとき、やがて不安や覚悟といったような感情がめぐってききました。目の前で横になってい

人事異動

●大学院医学研究所

- 上記のような出来事は、教科書を使って勉強することでは決して実感することのなかった事柄であり、私たちが学ぼうとする確固たる意志とともに、ご献体の方々の熱い思いがなければ実現しなかったことだろう。
- 定年退職(28・3・31)
ゲノム生化学講座 教授
土田 成紀
(弘前医療福祉大学)
放射線科学講座 教授
高井 良尋
(南東北BNCIT研究センター)
産科婦人科学講座 教授
水沼 英樹
(福島県立医科大学)
辞職(28・3・31)
分子病理生理学講座 助教
佐藤 次生
(青森県立中央病院)
病理生命科学講座 助教
吉澤 忠司(弘前市立病院)
感染症生体防御学講座 助教
小野 久弥
(北里大学獣医学部)
社会医学講座 助手
佐藤 諭(つがる総合病院)
循環器腎臓内科学講座 教授
奥村 謙
(社福)済生会 熊本病院)
内分泌代謝内科学講座 准教授
二川原 健
(つがる総合病院)
- 内分泌代謝内科学講座 助教
村上 洋(板柳中央病院)
消化器外科科学講座 准教授
豊木 嘉一(青森市民病院)
泌尿器科学講座 助手
岩村 大径
(青森県立中央病院)
産科婦人科学講座 助教
鴨井 舞衣(なし)
救急・災害医学講座 助手
大石 将文
(大館市立総合病院)
分子生体防御学講座 助教
丸山 敦史
(東北医科薬科大学)
糖鎖工学講座 助手
根岸 美香(株)ローレル
地域医療学講座 助教
柳町 幸
(内分泌科糖尿病代謝内科感染症講座)
地域医療学講座 助教
菊池 英純
(消化器内科血液内科膠原病内科 助教)
地域医療学講座 助手
安達 功武(眼科 助手)
地域がん疫学講座 助手
田中 里奈
(医学情報学講座 助手)
地域がん疫学講座 助手
工藤 和洋
(分子病理生理学講座 助手)
地域がん疫学講座 助手
秋元 直樹
(国立病院機構弘前病院)
地域総合診療学推進学講座 助手
羽賀 敏博
(三沢市立三沢病院)
附属子どもの発達研究センター 特任講師
高柳 伸哉(愛知東邦大学)
配置換(28・3・31)
五十嵐 剛
(地域総合診療学推進学講座)
採用(28・4・1)
病態薬理学講座 助手
小瀧 佳輝
(東北薬科大学大学院 学生)
分子病理生理学講座 助手
工藤 和洋
(寄)地域がん疫学講座 助手
病理生命科学講座 助教
清野 浩子
(放射線科 医員)
社会医学講座 助教
相馬 優樹
(筑波大学大学院 学生)
- 循環器腎臓内科学講座 助手
佐々木 憲一
(大館市立総合病院)
内分泌代謝内科学講座 助教
松橋 有紀
(つがる総合病院)
内分泌代謝内科学講座 助教
田辺 壽太郎
(大館市立総合病院)
整形外科科学講座 助教
熊谷 玄太郎
(青森市民病院)
皮膚科学講座 助教
是川 あゆ美
(皮膚科 医員)
泌尿器科学講座 助手
及川 真亮
(公財)鷹揚郷賢研究所弘前病院)
産科婦人科学講座 助手
石原 佳奈
(大館市立総合病院)
救急・災害医学講座 助手
豊岡 憲太郎
(麻酔科 医員)
医学情報学講座 助手
田中 里奈
(寄)地域がん疫学講座 助手
脳神経内科学講座 助手
成田 早希子
(脳神経内科学講座 技術補佐員)
分子生体防御学講座 助教
叶 鵬
(分子生体防御学講座 技術補佐員)
附属子どもの発達研究センター 特任講師
高橋 芳雄
(富田大学医学部薬学研究所理学教室 研究員)
地域医療学講座 助教
綿貫 裕
(内分泌科糖尿病代謝内科感染症科 医員)
地域医療学講座 助教
丹藤 利夫
(附属病院 研修医)
地域健康増進学講座 助教
徳田 糸代
(株)ライトクロス(インク)シナノナル)
地域救急医療学講座 助教
小林 完(小児外科 医員)
地域救急医療学講座 助教
黒瀬 理恵
(整形外科 医員)
昇任(28・4・1)
内分泌代謝内科学講座 准教授
藤山 和則
(内分泌科糖尿病代謝内科感染症 講師)
小児科学講座 助教
敦賀 和志
(小児科学講座 助手)

(次ページへ続く)

(前ページより)

消化器外科学講座 准教授
 石戸 圭之輔 (消化器外科 講師)
 整形外科学講座 准教授
 柳澤 道朗 (整形外科 講師)
 地域医療学講座 講師
 櫻庭 裕丈 (消化器内科、血液内科、膠原病内科 助教)
 高血圧・脳卒中内科学講座 講師
 中村 雅将 (循環器内科、腎臓内科 助教)
 大館・北秋田地域医療推進学講座 助教
 三浦 理絵 (大館・北秋田地域医療推進学講座 助手)
 配置換 (28・4・1)
 社会医学講座 講師
 倉内 静香 (保健学研究科 講師)
 消化器外科学講座 助教
 三浦 卓也 (高度救命救急センター 助教)
 消化器外科学講座 講師
 工藤 大輔 (消化器外科 講師)
 麻酔科学講座 助教
 矢越 ちひろ (集中治療部 助教)
 地域総合診療医学推進学講座 助手
 五十嵐 剛 (医学医療情報学講座)
 辞職 (28・4・15)
 放射線科学講座 助教
 野田 浩 (開業)
 採用 (28・5・1)
 総合地域医療推進学講座 講師
 米田 博輝 (令和田市立十和田湖診療所 医師)
 松村 功貴 (総合地域医療推進学講座 助教)
 宮澤 邦昭 (消化器内科、血液内科、膠原病内科 医師)
 神経精神医学講座 助手
 柞木田 なつみ (神経科精神科 医師)
 感染生体防御学講座 助手
 廣瀬 昌平 (感染生体防御学講座 特任助手)
 配置換 (H28・5・1)
 総合地域医療推進学講座 助教
 石田 祐司 (循環器内科、腎臓内科 助教)

● 附属病院

任期満了退職 (28・3・31)
 病院長
 藤 哲 (国立病院機構弘前病院)
 配置換 (28・4・1)
 病院長
 福田 眞作 (消化器血液内科学講座 教授)
 配置換 (28・3・29)
 呼吸器内科 助教
 田中 佳人 (呼吸器内科学講座 助教)
 循環器内科、腎臓内科 助教
 横山 公章 (循環器内科、腎臓内科 助教)
 辞職 (28・3・31)
 消化器内科、血液内科、膠原病内科 助手
 速水 史郎 (むつ総合病院)
 循環器内科、腎臓内科 助教
 泉山 圭 (三沢市立病院)
 呼吸器内科 講師
 森本 武史 (マックマスター大学)
 内分泌内科、糖尿病代謝内科、感染症科 助教
 山形 聡 (東北大学)
 神経科精神科 助手
 小山 智教 (なし)
 神経科精神科 助手
 工藤 周平 (弘前愛成会病院)
 呼吸器外科、心臓血管外科 助手
 服部 薫 (青森市民病院)
 呼吸器外科、心臓血管外科 助手
 千代谷 真理 (関西医科大学附属牧方病院)
 消化器外科、乳癌外科、甲状腺外科 助教
 赤坂 治枝 (青森厚生病院)
 消化器外科、乳癌外科、甲状腺外科 助教
 神 寛之 (鱈ヶ沢病院)
 整形外科 助手
 千葉 大輔 (青森労災病院)
 泌尿器科 助手
 小島 由太 (市立函館病院)
 泌尿器科 助手
 佐藤 天童 (大館市立総合病院)
 泌尿器科 助手
 藤田 尚紀 (むつ総合病院)
 泌尿器科 助手
 三上 稜太郎 (青森労災病院)
 眼科 助教
 吹田 淑子 (つがる総合病院)

産科婦人科 助手

小林 麻美 (つがる総合病院)
 麻酔科 講師
 佐藤 哲観 (静岡県立静岡がんセンター)
 泌尿器科 助教
 遠瀬 龍二 (三沢市立病院)
 麻酔科 助手
 西村 雅之 (青森市民病院)
 麻酔科 助手
 葛西 俊範 (青森県立中央病院)
 産科口腔外科 講師
 榎 宏剛 (八戸市立市民病院)
 高度救命救急センター 助手
 小笠原 尚志 (八戸市立市民病院)
 高度救命救急センター 助手
 吉田 枝里 (国民健康保険黒石病院)
 高度救命救急センター 助手
 角田 聖英 (高度救命救急センター 医師)
 採用 (28・4・1)
 消化器内科、血液内科、膠原病内科 助教
 菊池 英純 (地域医療学講座 助教)
 消化器内科、血液内科、膠原病内科 助手
 佐竹 美和 (つがる市民診療所)
 呼吸器内科 講師
 當麻 景章 (呼吸器内科 講師)
 内分沁内科、糖尿病代謝内科、感染症科 講師
 柳町 幸 (地域医療学講座 助教)
 内分沁内科、糖尿病代謝内科、感染症科 助教
 佐藤 江里 (内分沁内科、糖尿病代謝内科、感染症科 医師)
 神経内科 講師
 若佐谷 保仁 (脳神経内科学講座 助教)
 神経科精神科 助手
 吉田 和貴 (青森県立中央病院)
 呼吸器外科、心臓血管外科 助手
 小渡 亮介 (呼吸器外科、心臓血管外科 医師)
 呼吸器外科、心臓血管外科 助教
 于 在強 (呼吸器外科、心臓血管外科 医師)
 消化器外科、乳癌外科、甲状腺外科 助教
 中山 義人 (青森厚生病院)
 消化器外科、乳癌外科、甲状腺外科 助教
 長谷部 達也 (むつ総合病院)

整形外科 助手

山内 良太 (整形外科 医師)
 泌尿器科 助手
 成田 拓磨 (つがる総合病院)
 泌尿器科 助手
 野呂 大輔 (泌尿器科 医師)
 泌尿器科 助手
 萩原 和久 (鷹揚郷腎研究所弘前病院)
 眼科 助手
 安達 功武 (地域医療学講座 助手)
 産科婦人科 助手
 大石 舞香 (産科婦人科 医師)
 麻酔科 助教
 中井 希紫子 (麻酔科 医師)
 脳神経外科 助手
 片貝 武 (青森市民病院)
 産科口腔外科 助教
 成田 紀彦 (つがる総合病院)
 検査部 助教
 皆川 智子 (皮膚科 医師)
 集中治療部 助手
 田中 壽和 (鷹揚郷腎研究所青森病院)
 集中治療部 助手
 太田 大地 (麻酔科 医師)
 集中治療部 助手
 天内 絵理香 (麻酔科 医師)
 集中治療部 助手
 赤石 真啓 (産科婦人科 助教)
 麻酔科 医師
 齊藤 良明 (八戸市立市民病院)
 高度救命救急センター 助教
 遠藤 知秀 (むつ総合病院)
 高度救命救急センター 助教
 小笠原 紘志 (鱈ヶ沢病院)
 高度救命救急センター 助教
 石田 祐司 (高度救命救急センター 助教)
 消化器内科、血液内科、膠原病内科 助手
 中川 悟 (高度救命救急センター 助手)
 泌尿器科 助手
 福士 謙 (集中治療部 助手)

公益社団法人 青森医学振興会

沿革 平成11年3月1日 弘前大学医学部医学科後援会鶴桜医学振興会発足(任意団体)
 平成24年4月1日 公益社団法人青森医学振興会設立許可(青森県)

振興会では、21世紀の青森県の医学・医療を積極的に支援しようとする事業を行っております。

- 医学教育の助成 教育活動を活性化するための支援
- 医学研究の助成 研究活動を高度化するための支援
- 地域医療振興事業の助成 地域医療に貢献するための支援
- 医学国際交流の助成 国際学術交流の支援

随時、会員の募集とご寄附の受付をしております。
 会費と寄附金の納入方法は下記の通りです。

口座名	社団法人 青森医学振興会		
口座	青森銀行 弘前支店	普通 1087485	※ 各銀行の本支店及び
	みちのく銀行 大学病院前支店	普通 0198579	ゆうちょ銀行から振込む
会費	ゆうちょ銀行振替(旧 郵便振替)	02200-4-57580	場合は、手数料無料です。
	会員種別	年会費	
	医学部教員	1万円	お振り込みいただく場合は、 お手数ですが、振興会事務局まで ご連絡(電話、メール)願います。
	医学部卒業生	2万円	
	賛同する個人	1万円	
	賛同する団体	10万円	

お問い合わせ TEL:0172(33)5111内線6519 E-mail:jm6519@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学医学部 臨床教授・臨床准教授 新規称号付与者

- 臨床教授
- 相馬 悌 (黒石市国民健康保険黒石病院 院長)
 - 二川原 健 (つがる総合病院 内科・糖尿病・代謝内科科長)
 - 田崎 博一 (弘前愛成会病院 院長)
 - 杉本 和彦 (国立病院機構弘前病院 小児科部長)
 - 豊木 嘉一 (青森市民病院 外科部長)
 - 真里谷 靖 (むつ総合病院 放射線科部長)
 - 橋本 浩 (大館市立総合病院 麻酔科副院長)
 - 村岡 正敏 (黒石市国民健康保険黒石病院 麻酔科部長)
 - 北澤 淳一 (青森県立中央病院 臨床検査部部長)
- 臨床准教授
- 齋藤 太郎 (黒石市国民健康保険黒石病院 院長補佐)
 - 三上 貴史 (黒石市国民健康保険黒石病院 内科部長)
 - 深田 祐作 (千和田市立中央病院 麻酔科診療部長)
 - 吉田 仁 (国立病院機構弘前病院 麻酔科医長)
 - 長谷川 聖子 (黒石市国民健康保険黒石病院 医療局長 脳神経科医長 黒石がんセンター)

編集後記

新たな学年が始まりました。同じ様な月日の繰り返しの様ではあります。これからの期待が膨らむものです。

医学部ウォーカーには、

学内の種々の出来事や、COI研究とのコラボとして楽々と組んで高血圧予防のレシピを作ろうという、これぞ産学共同というプロジェクトも始まったという。と、大学で日々行われている事を、出来るだけ皆様にお伝え出来る様に取り組みます。これからの医学部ウォーカーを宜しくお願ひ申し上げます。

(大門 記)